９/２５　記者会見

１．内容（資料ご説明）

①道の駅パティオにいがた　大型複合遊具を１１月２日から利用開始 当日はオープニングセレモニーを実施します

パティオにいがたで今年度整備を進めている大型遊具の利用を、11月2日に開始する。当日は午前10時からオープニングセレモニーを行い、今町小学校の児童を招待して初遊び会を実施する予定。なお、増設した駐車場は、2026年8月から利用を開始済み。

②第５０回記念特別賞を設けて、見附市展を開催します

見附市展が今年で50回目を迎えることを記念し、「第50回記念特別賞」を設けて開催する。日程は例年どおり、10月9日から10月13日まで。

③認知症について理解を深めるイベントを開催します　～認知症になっても自分らしく暮らせるまちへ～

見附市が進めている「市民の誰一人取り残さない」まちづくりの一環として、認知症に関する取り組みを一層強化する。関連イベントとして、10月15日に市立病院の石黒医師による講演とトークセッションを含む「認知症フォーラム」を開催する。また、10月18日には、第二小区コミュニティの協力を得て、認知症の行方不明者捜索の模擬訓練を実施する。

④その他

見附ウォーキングまつり、女子軟式野球大会、ひきこもりからの社会参加に関する対話の会を開催予定。

２．質疑応答

質：見附新聞

・大型複合遊具の冬期間の利用は、どのようにするか。

答：市長

・多く雪が降る場合を除き、冬も閉鎖はしない方針。雪が少ない時期もある。こどもたちには、寒くても自由に元気に遊んでほしい。

答：建設課長

・補足として、カバーの付いた筒状の滑り台は、降雪時に危険な部分があるため、出入口を封鎖する。それ以外の遊具は、市長の方針どおり、降雪状況を見ながら利用可能とする。

質：新潟日報

・遊具の工事期間はいつからいつまでか。

答：建設課長
・工期は 4 月 30 日から 10 月 26 日までの 180 日間。
答：市長
・パティオにいがたは 4 月のリニューアルで入場者数や売上げが伸びており、大型遊具もその伸びに貢献してくれると良い。また、市内外から多くのこどもたちに来てもらうことで、見附のさらなる魅力となることを期待している。
質：新潟日報
・今回新設される「第 50 回記念特別賞」は、従来の市展賞よりも上位の賞か。
答：まちづくり課長
・特別賞は、市長賞や奨励賞よりも上位になる。７部門全体で３名が特別賞となる。
質：見附新聞
・9 月議会の決算特別委員会での病院会計の決算について。一般会計からの繰入れを収益的収支から資本的収支へ切り替えたことについて、「やってはいけないわけではないが、好ましくない」との最終的な判断は市長だったと思うが、その時点での市長の考えを聞きたい。
答：市長
・予算作成の段階で状況は把握しており、病院側とも協議の上、資本的収支への繰入れは望ましくない面があるものの、直ちに問題とはならないことを確認して決定した。
質：見附新聞
・病院を開設した当時の市長の考えとしては、中部産業団地からの固定資産税・都市計画税などを病院財源に充てる前提だったのでは。病院の赤字補填と産業団地の誘致の関係をどう認識しているか。
答：市長
・当時、中部産業団地を誘致するのは大きな判断だったと思うし、「病院のためだけに」といった部分を詳しくは承知していなかったが、現在も市の経済や財政に大きく貢献していると認識している。中長期の財政を見通す中で、今後の企業誘致も進めていかなければならないと思っているし、少しでも病院の経営改善に努めたい。一定の目途を設ける形で赤字の補填もせざるを得ないと思いながらも、ケアプラザの介護医療院への転換を成功させて、市民ニーズへの対応と経営改善の両立を図っていきたい。
質：見附新聞
・介護医療院への転換はどうなったら「成功」と考えているか。
答：市長
・市民ニーズに合致した転換を実現し、少しでも経営改善につながることを成功と考える。企業誘致などの収入によっては交付税措置が減る部分もあるため、収入がそのまま税収とはならない点をご理解いただきたい。具体的な数値目標はまだ決められる状況ではない。
質：見附新聞
・例えば、一般会計からの繰入額を毎年 1 億円と定めれば、留保資金が生まれてくる。経営改善のためには明確な目標設定が必要だと思うし、目標設定がないと病院職員のモチベーションを維持したり高めたりすることができないのではないかと思う。市長の考えはどうか。

答：市長
・一つのやり方としてあるのかもしれないが、現状では上限は１億円と答弁をさせてもらった。今後、介護医療院に転換することで、どれくらいの改善が見込めそうかといったことを見極めながら、今後のあり方を考えていく。
質：見附新聞
・経営改善において医師・看護師の確保は重要だが、今議会では触れられていないように感じた。医師の確保は市のトップが動くべき案件であり、市長はどのように考え、具体的にどう動いているのか。
答：市長
・医師確保は非常に重要だと認識している。議会で質問がなかったため答えていなかったが、病院側と連携し、私自身も最近、新潟大学病院などを訪問し、さまざまなお話をお願いさせていただいた。今後も私が先頭に立って医師確保に努めていく。
質：見附新聞
・県内 4 市のみが作成しているという内水ハザードマップについて、見附市の現状はどうなっているか。
答：市長
・今年度作成中であり、来年度できるだけ早く市民の皆さんにお知らせしたいと思っている。
質：見附新聞
・7.13 水害の後、第 1 期工事として旧市谷地区に雨水貯留管が整備され、第 2 期工事までの緊急措置として排水ポンプを設置したものと記憶している。あのエリアでは雨水貯留管が整備されたところにどうしても目がいってしまうが、南本町 2 丁目から本町 3 丁目にかけても道路が冠水していた。第 2 期工事の計画は現在どうなっているのか。
答：市長
・第 2 期工事については承知していないが、基本的にこれまでの整備で浸水対策は十分になされていると認識している。現在は特に貝喰川流域の排水機能整備に注視して進めているところだが、県の整備とも連携しながらハード・ソフト両面から、見直す部分がないかも含めて対策を検討していく。
質：見附新聞
・冠水に関連して、ウエルネスタウンの入口付近について、近所の方からは「あのエリアは雨が降ると必ず水が上がる」と聞いた。そこを解消しないと、販売にも影響があるのではないかと思う。貝喰川流域は遺跡発掘調査で工事が遅れていることを承知しているが、少しでも早く取り組んでいただきたいと思う。
答：市長
・工事費の増大など調査でいろいろ分かってきた部分もあるが、暫定的なものでも良いから少しでも改善したところを見せられるように、工事のスピードアップを県に要望している。昨年は知事宛てに要望書を提出し、今後も長岡地域振興局と協議しながら要望する。住民への丁寧な説明についても、地域振興局にお願いしている。